

平成27年7月6日～7月12日までの全国の暑さ指数（WBGT）の
観測状況及び熱中症による救急搬送者数と暑さ指数との関係について
（お知らせ）（平成27年度第9報）

1. 目的

環境省では、暑さ指数(WBGT：湿球黒球温度)の予測値・実況値について情報提供をしております。今般、全国の熱中症患者数が急増していることから、暑さ指数の情報提供に加え、暑さ指数の推定精度の高い約150地点について、過去1週間程度の暑さ指数の観測状況、暑さ指数と熱中症による救急搬送者数との関係について、定期的に情報提供を行うことといたしました。本情報等を活用し、広く熱中症の予防にご協力いただきますようお願いいたします。

2. 先週（7月6日～7月12日）の全国の暑さ指数の観測状況について

暑さ指数31℃以上（危険）の時間数（168時間中）

1. 石垣島（沖縄県）	31時間
2. 与那国島（沖縄県）	29時間
3. 久米島（沖縄県）	28時間
4. 南大東島（沖縄県）	26時間
5. 宮古島（沖縄県）	24時間

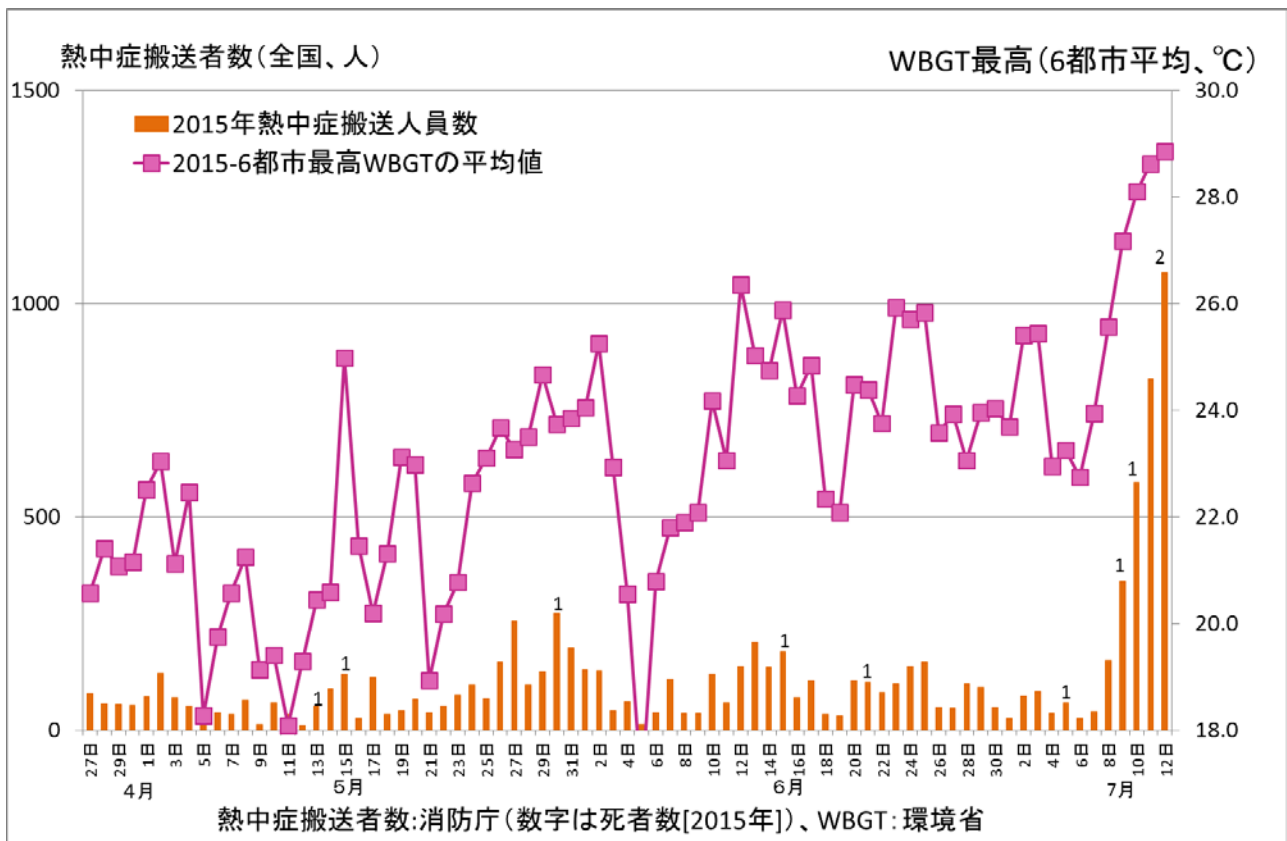
<参考>全国9都市の観測地点

札幌（北海道）	0時間
仙台（宮城県）	0時間
新潟（新潟県）	0時間
東京（東京都）	0時間
名古屋（愛知県）	0時間
大阪（大阪府）	0時間
広島（広島県）	0時間
福岡（福岡県）	0時間
鹿児島（鹿児島県）	6時間

- (注1) 暑さ指数は、これまでの調査結果による推定手法を用いて、気象庁の観測資料から推定した値です。
(注2) 暑さ指数31℃以上の時間数は、今回の調査では、石垣島の31時間が最多で、153地点のうち6地点で暑さ指数31℃以上の時間がありました。なお、暑さ指数31℃以上とは、（公財）日本体育協会の指針において、運動は原則中止レベルです。

3. 6都市の暑さ指数と熱中症による救急搬送者数(全国)との関係

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



○ 6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、7月6日～7月12日までの期間は23～29°Cで、特に後半10日以降28°Cを超えています。熱中症による救急搬送者数は、消防庁発表の速報によると、10日以降は500名を超え、特に12日には1,073名と極めて多い水準になっています。

○ 沖縄県では高温が継続しています。一方全国的に10日以降高温傾向となり、北陸から九州にかけて、昼間の日最高暑さ指数(WBGT)が熱中症の危険度の「危険」を示す31°Cを超過する地点が現れ、北陸・関東以西では多くの地点で「厳重警戒」を示す同28°Cを越しました。このため、広い範囲で熱中症に厳重な警戒が必要な状態になっています。

○ 気象庁発表(7月15日11時時点)の週間天気予報では、最高気温・最低気温ともに、北日本と東日本では北日本と東日本は平年並か平年より高い見込みです。西日本は、平年並か平年より低いでしょう。沖縄・奄美は、概ね平年並の見込みです。

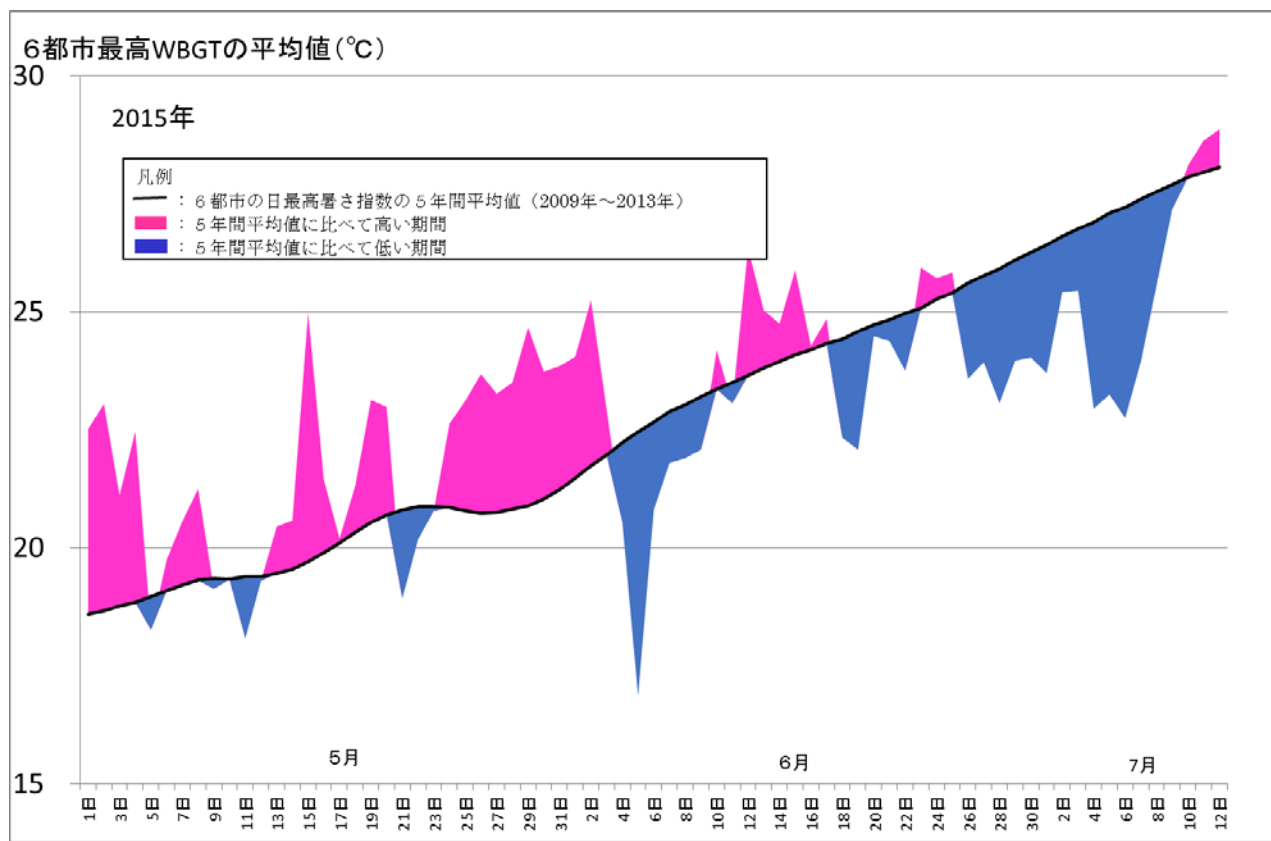
○ 全国的にかなりの高温になっていますので熱中症に厳重な警戒が必要です。不要不急の外出、作業を控えること、室内では無理せずエアコンを使うこと、こまめに水分補給や休息をとることなど、体調管理に十分に注意してください。

(注) 6都市における暑さ指数は、環境省の観測と気象庁の観測資料から求めた観測値です。

6都市：東京、新潟、名古屋、大阪、広島、福岡

4. 2015年の6都市の暑さ指数と過去5年間平均（2009～2013年）との比較

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



5月の6都市平均の日最高暑さ指数（WBGT）は、6月から7月上旬にかけては5年平均を下回る状態でしたが、10日頃から急激に高くなり、平均値を上回る状況になってきました。

この夏初めての本格的な高温の状況で、熱中症搬送者数が千名を超え、死者も記録されています。体が厳しい暑さに慣れていないこの時期は、熱中症が発生しやすくなりますので、十分な暑さ対策を心がけてください。

（注）この項（4項）は、平均を大きく上回る高温が記録されたときに追加してお知らせします。

